

開催地名	佐賀県佐賀市
開催日時	令和5年11月13日（月） 14:00～15:30
開催場所	佐賀市役所会議室
語り部	蔵原 正敏（熊本県宇城市）
参加者	佐賀市役所職員 43名
開催経緯	本市では、今後の本市の防災行政を担う職員を育成するため、職員の防災研修の体系化を進めていきたいと考えており、今回はその一環として、他自治体において災害対応に従事した職員の実体験等の講話を受け、過去の災害対応を学び、職員の防災意識の向上を図りたい。
内容	(1) はじめに 台風による暴雨災害・高潮災害、豪雨による土砂災害・浸水災害など、宇城市でも経験したことのある災害については備えが出来ていた。一方、地震に関しては宇城市自体にも断層が走っているため、いつ起きてもおかしくないと言われていたが、自身の記憶でも今までに震度1～4ほどの揺れを数回経験している程度で経験値がなく、あまり備えが出来ていない状況だった。 (2) 平成28年熊本地震 宇城市は震度6弱だったが、震度4以上の強い揺れの回数は熊本の中で一番多かった。熊本地震の特徴として、本震後も余震の揺れが長く続き、後から被害がじわじわと広がった。 防災計画の初動対応として職員の約8割が登庁した。宇城市では震度6弱発生時は職員が全員参集する等、災害対策を行っていた為、防災担当以外の部署も含め職員全体で防災の意識が高かったと感じている。 避難所は、まずは11カ所で開設。車中泊や軒先避難に関しては、残念ながら把握出来る余力もなく支援が出来なかった。 避難所運営に関しては非常食も用意していたが、翌日にはなくなってしまった。幸いにも全国規模の製パン工場があったので、菓子パンを調達して凌ぐことが出来た。数日経つと大変有難いことに、全国からも支援物資が届き始めたが、そのうち計画していた集積スペースに収まらない量となった。余剰分も出てくる程で、仕分けに労力も必要となった。また物資が深夜に届く事もあり、搬入作業など、職員が手薄で且つ重労働のため、かなり苦勞した。ローラーコンベアなどを借りて対応したところ、かなり効率化が出来た。早い段階で借りておけば良かったと実感した。 地域での活動では、消防団の方に大変お世話になった。要支援者の安否確認から、昼は救護物資の搬入、夜は警備まで。また停電した後の通電＝火災予防など昼夜問わず行っていた。自衛隊にも大変お世話になり、給水車の手配・炊き出しなど様々な支援を頂いたが、特に入浴施設の提供は市民に大好評だった。 物資配布と共に苦勞したのが罹災証明発行だった。もともと発行にどのくらいの時間がかかるかわからない状態から始めたが、計画では1日600～700件を想定していた。ところが実際は、発行するのに1時間で3件（一次調査も1時間3件、二次調査は1日3件）しか対応出来なかった。宇城市役所の車収容台数は約300台であるが、発行初日は朝一番で既に、約400名もの行列であった。午前中には、当日の受付を断らずを得ず、片付けに追われる市民の皆様に迷惑をかけることとなった。判断ミスだと痛感している。その後、窓口ブースを倍に増やし、受付番号毎に発行予定時間を示し、再来庁いただく流れに変え、スムーズに回り始めた。また住家被害認定も申請を受け付けてから

	調査に回することは非効率的と考え、地区内ローリング調査などで対応していった。 (3) 課題 避難所運営に関して、職員が対応すると通常業務及び災害復旧業務に手が回らないため、途中から民間の警備会社に依頼したが、本来は避難している住民自ら運営出来るのが望ましい。また支援の受援体制が整っておらず、初動マニュアルもうまく対応出来ていなかった。平時から様々な事を想定し、受援計画の策定や、誰にでもわかりやすいマニュアル作りを進めていくことが大切である。罹災証明書発行システムも未整備だったため、被災者支援システムの配備も必要である。 マンパワーが必要な時は民間と連携する事も必要である。台風被害などと比べると、桁違いの避難者数と避難所運営が長期に渡る。対応する職員がしっかり休みを取り、長期戦に備えることは重要である。地震は、災害対策の規模が台風や水害と比べて圧倒的に違う。その地域の行政だけで対応するのは困難なため、専門機関や民間企業、災害を経験した自治体と連携をとり、進めていく必要がある。 (4) 最後に 折角助かった命を2次災害で亡くす事がないようにしなければならない。防災無線を使って気象情報を伝えたり、エコノミークラス症候群を予防するため、時報もかねてラジオ体操も実施した。これらはまだ若い職員が提案して実行したものである。また普段から（熊本地震前から）総合防災訓練を行っていたが、特に安否確認訓練で要支援者の面会を行っていたことで、本震の翌日には6,000名もの安否確認が完了したのは良かった点である。 綿密に防災計画を立てていても、必ず想定外のことが起きる。失敗して学んだことも多いが、良かった点もある。対策出来る部分は対策したうえで、実際に災害が起きてしまった場合には、臨機応変に対応していくことが求められる。
開催地より	熊本地震の際の初動対応や避難所運営、物資の集積・配送など具体的かつ非常にわかりやすいお話をしていただき、参加者からは、実際に災害対応に従事した職員の話を聞くことができたのは大変貴重な体験だったとの感想もあった。 今後も職員の階層に応じた防災研修等を行い、職員の防災意識の向上を図ってきたい。